

# 蓬田

蓬田村公民館報  
【蓬田】  
第31号  
発行所 青森県津軽郡蓬田村公民館  
印刷所 蟹田印刷所

## 公民館運営審議会委員發令さる

組織会に於て

### 武井一郎委員長

### 副武井俊男選任さる



致で委員長、武井一郎、副委員長武井俊男を選任、議事に入り三十七年度予算を檢討承認、教育委員会に提出の運びとなつた。

委員長 武井一郎(議会議長)  
副委員長 武井俊男(連青団長)  
委員 張問周太郎(教委)  
溝江紀一(中沢小長) 上田嘉四郎(蓬田中長) 名古屋専三郎(蓬田中長) 沢谷三郎(広瀬小長) 八田勝朗(高根小長) 森みさ(婦人会長) 清水

## 第一六回蓬田村婦人会開く

三月三十日 中沢小於

会場持廻りの原則にしたがひ、三十七年度の総会は会員多数を召集し中沢小学校で開いた。来賓は、坂本村長、森教育長、坂本館長、溝江校長、坂本(孫)坂本(基)両村長、田中、久慈、小鹿の各顧問、森会長あいさつ、東部大運動会には堂々と優勝村民の期待に応えたことは会員皆さんの団結のおかげである。この精神で婦人運動発展のため努力し、明るい楽しい社会を創りましょう。

## 昭和三十七年度 蓬田村收支予算議案

### 併せて交通安全決議案を決議す

三十七年度、向う一ケ年の蓬田村の台所をまかなう予算議案は二月十二日召集され、会期を八日間もち全議員精力的に収支予算案とそれに伴う関係条例と取り組み全議案を可決、決定し十九日午後四時閉会した。

一般会計収支 三千二百二十二万八千二百八十四  
特別会計収支 一千七百七十六万三千六百二十八  
三十七年度、向う一ケ年の蓬田村の台所をまかなう予算議案は二月十二日召集され、会期を八日間もち全議員精力的に収支予算案とそれに伴う関係条例と取り組み全議案を可決、決定し十九日午後四時閉会した。

併せて交通安全決議案を決議す  
三十七年度、向う一ケ年の蓬田村の台所をまかなう予算議案は二月十二日召集され、会期を八日間もち全議員精力的に収支予算案とそれに伴う関係条例と取り組み全議案を可決、決定し十九日午後四時閉会した。

入				出			
科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
前年度繰越額	5,995	2,924	3,071	旅費	16,000	13,000	3,000
村補助金	30,000	25,000	5,000	報償費	6,000	5,000	1,000
会費	16,200	17,520	△1,320	交際費	6,000	3,000	3,000
雑収入	7,000	2,000	5,000	消耗品	1,000	2,000	△1,000
				燃料費	1,000	1,000	0
				会議費	15,000	10,000	5,000
				印刷費	500	500	0
				通信費	1,000	1,944	944
				負担金	6,000	4,000	2,000
				研修費	6,500	7,000	△500
				予備費	195	0	195
計	59,195	47,444	11,751	計	59,195	47,444	11,751

昭和三十七年度 蓬田村婦人会才出予算書  
才出 才入  
才出 才入  
昭和三十七年度三月三十日提出  
蓬田村婦人会長 森みさ  
昭和三十七年三月三十日決  
蓬田村婦人会総会

### 交通安全決議案

われ等交通安全宣言の下に次の項目を身をもって実践し、交通安全を期す。  
一、われ等は正しい交通道徳を身につけ道路交通法の遵守となる。  
二、われ等は交通安全思想の普及徹底と交通道徳の確立のために挺身努力しよう。

### 蓬田青年学級開講す

昭和三十六年度青年学級は学級生の村外就職等により著しく減少し、学級を開くに到らず三十七年度を迎える事案に際し、教育委員会、公民館では頭を痛めその打開策に再三協議をもち協議を続けて参りました。

新しく中学校卒業生のうち県外に就職する人達の前進を祝して三月十七日蓬田村役場会議室に於て蓬田村長、青森職業安定所長、蓬田中学校長、公民館長、等出席のもとに壮行会を開催した。

### 蓬田村連青团 定時総会開く

蓬田村連合青年団で三十七年度総会を四月一日午後一時より蓬田小学校で開き予決算事業計画を承認決定役員の変更があり新しい役員が誕生した。

新しく中学校卒業生のうち県外に就職する人達の前進を祝して三月十七日蓬田村役場会議室に於て蓬田村長、青森職業安定所長、蓬田中学校長、公民館長、等出席のもとに壮行会を開催した。

### 県外就職者 壮行会

新しく中学校卒業生のうち県外に就職する人達の前進を祝して三月十七日蓬田村役場会議室に於て蓬田村長、青森職業安定所長、蓬田中学校長、公民館長、等出席のもとに壮行会を開催した。

新しく中学校卒業生のうち県外に就職する人達の前進を祝して三月十七日蓬田村役場会議室に於て蓬田村長、青森職業安定所長、蓬田中学校長、公民館長、等出席のもとに壮行会を開催した。

### 北海道農業 労務者出発

毎年春になると北海道行き労務者が郷土を離れて出稼に行くが、その第一陣として帯広市農業労務者十名はさる四月二日午後六時の連絡船で出発した。

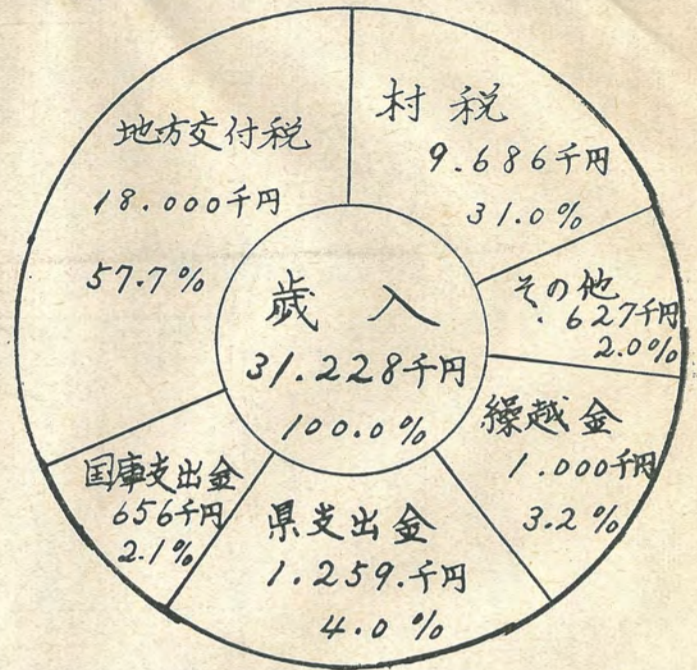
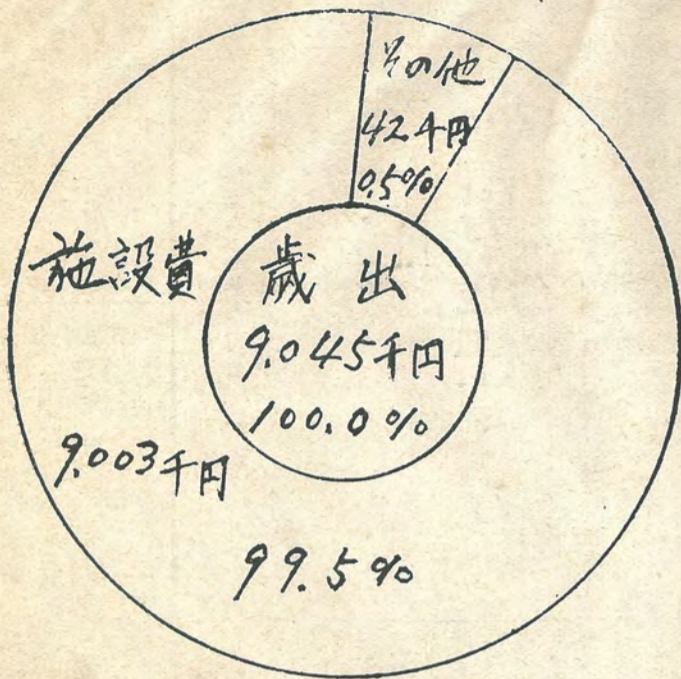
新しく社会に出る中京県外就職者第一陣は三月十九日青森路上野行で勇躍出発した。

### 執務時間の改正

蓬田村役場の執務時間を四月一日より左記のとおり改正いたしました。

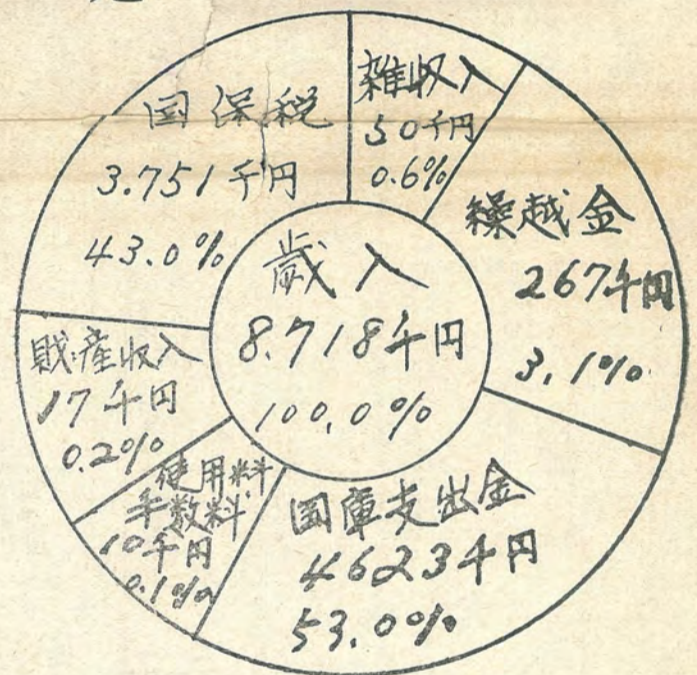
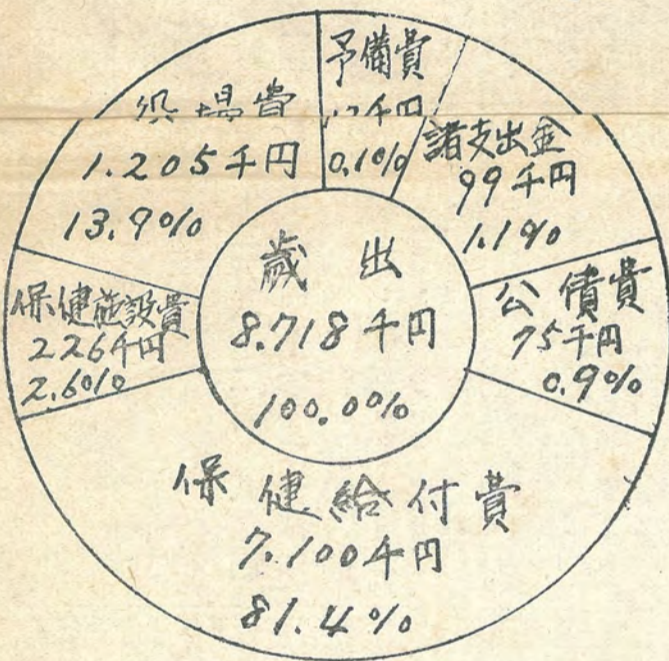
# 昭和 37 年度蓬田村予算

## ( 一 般 会 計 )

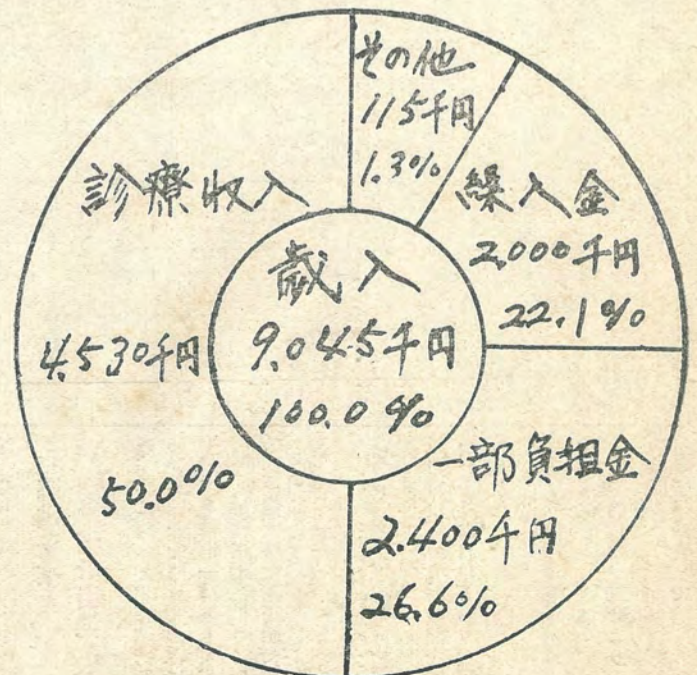
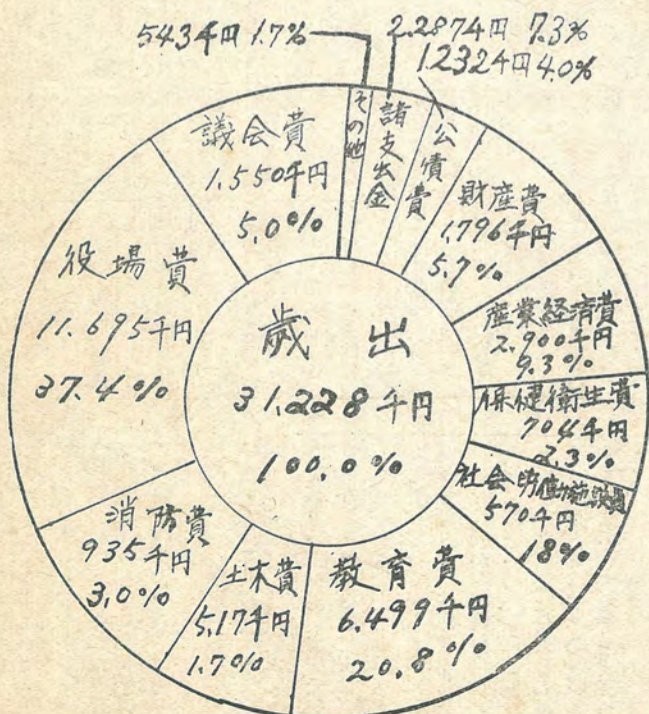


## 昭和 37 年度国民健康保険予算

### 事 業 勘 定



### 直 診 勘 定



# 第一回 蓬田村女子青年建設班閉講式

## 三月三十一日於蓬田小

客年十二月一日開講した蓬田村女子青年建設班は予定の成果をおさめ閉講式することになった。

開講時五十三名を数いたが嫁入りその他で所定の課程を修了した者は四十七名で、我が村の中堅女子が誕生したわけである。明日からはそれらの家事手伝、季節労働として身につけた教養を實踐に移すことになった。坂本村長から四十七名を代表して田中たい子が修了証書授与、将来諸君に期待するもの大きいとはげましのことがあり、県農務課後藤氏のお祝の辞を戴き、藤本恵子が答辞を述べ建設班歌を斉唱、式を閉じ、記念撮影し閉講式を終いた。

指導者坂本明子 講師坂本ふく、豊川

- 職員名(順不同)
- 佐々木節子 倉谷つぎ子
  - 小松和子 藤本栄子 川内ユミ
  - 本間セツ子 藤本恵子
  - 森タエ子 室谷やす子 松本やち子
  - 八戸セチエ 木野田きみえ
  - 工藤悦子 八戸いくみ
  - 武井あさえ 藤本マツ
  - 八戸み子 鈴木昭子 張間厚子
  - 八戸弘子 吉崎洋子 小鹿うめ子
  - 青木光子 田中富代
  - 藤本文江 鈴木洋子 小松ゆい
  - 浜田友子 宮田みよ
  - 武井あさえ 本間育子 古川あきえ
  - 口中たい子 田中ユキ
  - 成田えり子 成田久子
  - 天内貞子 藤本み 藤本公子
  - 小鹿あきえ 小鹿きみえ
  - 大宮雪枝 加藤良子 高田和子
  - 田文字

### 蓬田女子青年建設班歌

一、あ、青年は意気ありて 国の宝と言ふものぞ 名利を越え堂々と 旗色高く前進だ

二、あ、東の空の果て 祖國は今や混タクの

三、あ、青年よ君こそは 古きオキテを打ち破り 民主日本建設を 双手になうその人ぞ 我等は青年建設班

我等は青年建設班

子 三上文字 青木幸江 越

ならくの淵を彷徨す 目覚めよ起てよ青年よ 団結思想を絶叫せん

### 日赤から 毛布贈らる

さる四月五日の高根部落落災火の罹災者に対し一戸当り毛布一枚茶道具一組贈られた

## 蓬田中学校三十六年度卒業式

### 三月十五日厳肅裡に挙行

蓬田中学校三十六年度卒業式は三月十五日午前十時より同校々堂に卒業生、在校生全

員多数の来賓と一同に会し挙行された。名古屋校長から一人一人に卒業証書が授けられ、希望に胸をふくらませ、輝ける瞳は満堂を圧した。名古屋校長式辞を、森教育長告辞、坂本村長、武井PTA会長、山口議員の祝辞を戴き、厳しく裡に式を閉じた。

### ※九年間告勤者名

氏名	性別	保護者	部落名
坂本 大	男	トヨシ	中澤
坂本 順造	男	トシ	長科
坂本 芳孝	男	ナシ	中沢
小松 万亀也	男	トシ	蓬田
高坂 司	男	トシ	瀬辺地
横山 幹子	女	トシ	中沢
森志 保子	女	トシ	阿弥陀川
高木 康子	女	トシ	阿弥陀川
八戸 けい子	女	トシ	阿弥陀川
佐藤 かつ子	女	トシ	蓬田
森 京子	女	トシ	阿弥陀川
福井 初代	女	トシ	郷沢
工藤 嘉世子	女	トシ	瀬辺地
久慈 由起子	女	トシ	瀬辺地
室谷 善代子	女	トシ	蓬田
越田 千代恵	女	トシ	広瀬
山谷 登	女	トシ	阿弥陀川
山 登	女	トシ	長科
佐々木 隆恵	女	トシ	長科

### 消防団人事

三月三十一日で任期が切れた消防団幹部の人事は次の通り四月一日付で任命された。

消防団長 越田由太郎 副団長 坂本増吉 武井三三郎

第一分団長 藤田晃作 部長 坂本三行 第二分団長 坂本祐一 小鹿助正 第三分団長 森秀一 八戸一郎 第四分団長 武井豊春 村上秀春 第五分団長 中川与一郎 第六分団長 武井俊雄 第六分団長 田中清衛 飯田松三郎 第七分団長 崎善一 久慈正信 第八分団長 小野寺守 坂本日東 八戸光義 八幡徳松 稲葉賢次郎

### 蓬田村火災予防 条例案の説明会実施

さる四月二十日午前九時から蓬田村役場で蓬田村火災予防条例案の説明会を実施した。尚当日は消防幹部会でもあり消防部長以上のものに説明会を開いた。

### 母子福祉会総会開かる

さる四月十日蓬田村役場会議室に於て蓬田村母子福祉会総会開催された。佐藤厚生主任より昭和三十六年度母子福祉会の経過報告があり、坂本村長より「今後母子福祉会を大きく強く育て、行きたい」と挨拶があり一戸東地方福祉事務所長より母子家庭の更生には非常に困難があるが現在の更生制度を大いに利用してもらいたい。母子福祉資金等の活用を考え

### 遺族会総会 開かる

昭和三十七年度蓬田村遺族会総会は、さる三月二十一日阿弥陀川正法院で遺族九十名が集つて開かれた。戦死戦病没死英霊の慰霊祭を執行の後總會開催、会長八戸三郎挨拶の後村長坂本大博祝辞大谷県遺族連合会副会長の祝辞の後昭和三十六年度決算承認、昭和三十七年度予算を可決した。總會終了後、県遺族連合会顧問田沢康三郎氏の講演にうつり家庭の和、家庭の礼儀子供と親の和等について有意義な話を聞いて總會を終った。

### 蓬田村漁協魚巢地区設定 第一期工事完了

蓬田村漁協ではかねてから計画の中の、沿岸漁業対策の一かんとして魚巢区設定工事を進めていたが三月三十一日第一期工事完了した。工事費二十二万円が古漁船(発動機船)五隻を買い求め、石一貫貫積載、蓬田小学校沖合に沈下した。魚巢によつて繁殖した魚類はこの秋頃からサン網、かご等による豊漁を今から期待している。と漁民は喜んでゐる。

### 強風下の出漁止めよ

十二日に春季火防演習を実施した。特に今年には高根部落の火災もあり次のことを厳重に

美人も毎日鼻の先にいると、これが美人かと思えてくる。海を愛し海と話し、と云うと非常に詩的であるが、男性的な海は又非情である。一度荒れると人間など木の葉よりもあつけない海の底に沈むのである、何のことはない、死んで花見が出来るもんで、死んで生きているが死を好むやつはあるまい一度死んだやつは生きてこれんだ。出漁だけではいけない。特に危険だ良く注意して今後は二度と海難がないように気を付けよう。

# 踏切事故をなくしよう

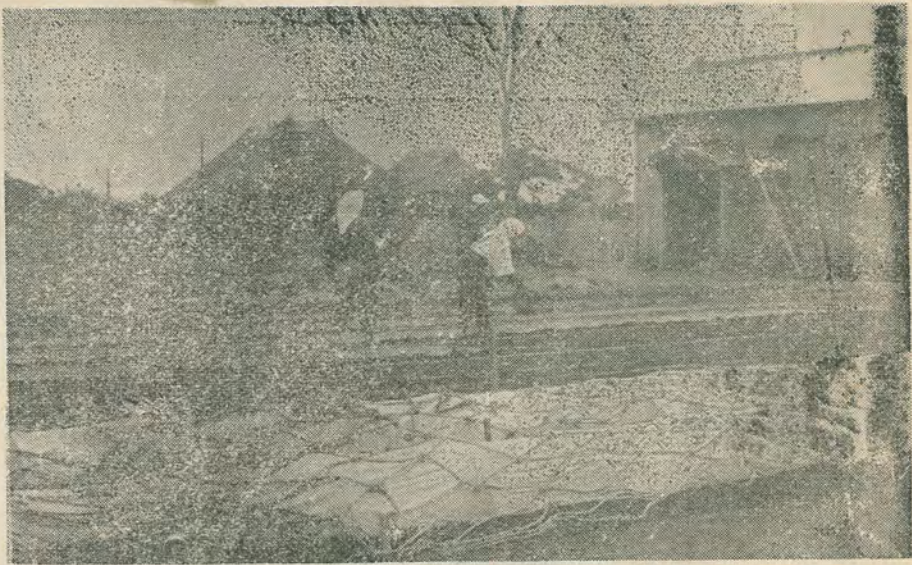
新聞やテレビで御承知のとおり毎日悲惨な交通事故がおきまわっております。特に踏切の事故においては増加の傾向、ございませう。津路線にも数多くの踏切があり、踏切線路その他踏切の通行の際の事故が多いので、踏切事故を防止するために次の事を必ず守りましょう。

- 一、踏切を通る自動車その他の車は必ず踏切の手前で一時停車して左右をよくみて安全を確かめてから通ること。
- 二、歩行者も一たん停止を怠らないよう注意すること。
- 三、踏切施設のないところは通らないこと。
- 四、鉄道線路上は絶対に歩かないこと。
- 五、踏切の付近には薪、その他のものを積んで交通の障害とならないように協力して下さい。

## 村を明るくしよう

蓬田警察官駐在所

各部落を歩いて見ると外灯があつても電球が切れて暗い部落が非常に多い気がする。電球は外灯用を買つて付けるのと少々切れないものです。節角ある外灯に電球を付けないで暗くして電球料金を払うのもどうかと思ふ。最近「こそ泥棒」がしそかに夜間作業しているとの情報がある。警察、夜廻、何と云つても外を明るくすることが被害を最小限に止める方法と思ふ。夜明るい道を歩くには良い気がするものである。只立小便の時は一寸固るが、それは我慢して上手にやればよろしい。部落の区長さん達は電球料金を払うとき暗い外灯の分も払つてゐることを知つてい



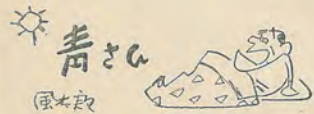
## 二万三千石の種下ろす

一足飛の農作業  
耕耘機の騒音も春のリズムだ  
七百町歩の種下ろさる  
二万三千石の期待を託して

(豊水)

ますかどうでも良いと思つていかも知れない慢性になつて、いやし考えて下さい。犯罪を防止するために取られてからささいでも時すでに遅し、外灯をつけて気持よく、又防犯のために外灯をつけて村を明るくしましょう。

風来生



## 蓬田村職員組合

### 第六回定期大会が開催された

蓬田村職員組合の第六回定期大会はさる四月十四日午後二時から役員会議室に於て開催役員改選が行なわれた。新役員次の通り  
執行委員長 高田兼三郎 副委員長 八戸春海 執行委員 倉谷松衛 大澤保 書記長 佐藤喜一 監事 張間謙吉  
高根部署の火災罹災者に対し、県共同会から一世帯当り一五五百円とタオル二本宛贈られた。

### 協同募金から も罹災者え

## 三十七年度春季

### ベビーコンクール

東奥日報社、青森県保健所共催による春季ベビーコンクールを三月十九日蓬田診療所で開催した。参加人数二百四名で審査発表は後刻とつてゐる。



上の写真は ベビーコンクールの一コマです

## 世の中に嫌な人がないものだ

### 尺取亭 夢人

[3]

一月十一日 木曜 雲  
藤田てい子女史  
三十五年東都青年大会が平内町で開かれ、私も見学に行つたが、その頃歯が痛み歯科医に診て貰つたら歯槽膿漏症と判定され、ガツカリ虫歯なら仕方ないが外観ナントもない歯が全部抜かれると思つたら心が細まるい思いで大会をみていた夜は前細川町長の招待を受けるも流石の大虎ものめじ、ジタジタにヒヤかされたことを思い出す。

どうしても抜きたくないので、さまざまに人にきいたら塩で毎朝毎夕みがくと治ると話されそれを実行したら現在までよかつたがその後放置したらまた炎症を起してきた。

我満出来ず診療所の二階に上る。「先生どうにかならんもんか」「サア今の所なんとも?」「全部抜くことになるのか」「今のところそんなでもないが、やがてネ」

やがて、やがてとは先が長いのか短いのかやがて焼場の煙になるのは決つてゐるし、それも短いのか長いのか私にも判らないことだ、知つたとしてもエマ機位のものでどうも正直なところ四、五年は抜きたくないことだけは事実だ。「なにが養生法はないか」「坂本さんなら酒を断つ意外にないでしょう」

### 高田平之助さん

歯の治療を終つて、ここまで来たついでにと漁協に寄る。吉田組合長と高田平之助さんがストロブを囲んでなにか話してあつた。高平さんとはい分しはばらく逢つていなかつた。親しい人に偶然に逢ふとゆうことは嬉しいものだ。高平さんは私と親と子の年令の差があるが、いつもその年令の差を越えた対当の活をし

